

## 業界から一言

### 製造業

食料品製造／菓子関連は、全体的には横ばいであるが、袋菓子類が低調。水産物加工は、微増であるが、原料高により収益状況は改善しない。麵類製造は、寒波の影響で小売店の客数が減少したため、売上が減少。加えて、燃料費などの製造コスト増、包装資材等の高騰が経営を圧迫。

### 繊維・同製品／織物は、大企業向けのネクタイ製造が増加しているが、原料の絹が高く収益を圧迫。稼働率を支えていた袖裏地が生産調整に入り、業界全体の景況感が悪化。既製服製造は、寒波のため発注は増加したが、単価が不変のため、人件費増で利益は少ない。

窯業土石製品／生コンクリートの出荷量は、公共物件の減少が大きく、全体的に厳しい状況。砂利販売は、小規模事業者の自己破産が多発し、数社が影響を受けている。年度末に向け、工事が増加し、売上が増加したが、収益が

好転するところまで回復していない。

### 鉄鋼機械金属／機械製造は、企業間格差はあるものの、全体的に好調に推移。

宝飾品／宝飾品は、展示会に向けての生産に迫られたが、原材料の高騰、短納期要請、受注の減少により、収益が縮小し、経営が厳しい。

非製造業

### 小売業／ショッピングセンター

ターは、景気の回復感が見られ、売上が微増したところがある。水産物は、相変わらず大型店へ消費が流れる中、総菜の強化など製品加工による付加価値をつけて販売する小売店が増加している。青果は、野菜が品薄で高騰し、小売店は仕入量を抑えている。食肉小売は、米国产牛肉の再度の禁輸や鳥インフルエンザの人への感染報道等により、業界をあげての信頼回復努力は水泡に帰し、売上が減少した。家電は、大型薄型テレビ、パソコンが売

景況情報

山梨県中小企業団体中央会

情報連絡員報告  
(平成18年1月分)

# 景況情報

調査対象の50業界のDI値は、製造業は、「業界の景況」、「収益状況」、「売上高」とも悪化。非製造業は、「業界の景況」、「売上高」、「収益状況」ともやや悪化した。全体としては、「業界の景況」、「収益状況」、「売上高」ともやや悪化した。

大企業を含めた県内全体としては、前月に引き続き、回復に向けた動きが広がってきているようであるが、中小零細企業は前月の全体的な好調さとは一転し、厳しい状況となっている。原油高の影響による燃料費等の直接的なコスト高に加え、包装資材、溶接資材などの石油関連副資材のコスト高が収益を圧迫している。

上を牽引した。今年は、オリンピックなどのビッグイベント、地上デジタル放送の開始などがあり、市況の活性化を期待。ガソリンスタンドは、元売各社は1円／ℓ程度値上げしたが、ガソリン、軽油販売価格は据え置き、灯油は6円程度値上げした。2月は2円／ℓ程度値上げ予定。自動車販売は、新車販売に伴う無料サービスの実施により、一般管理費が増加し、収益を圧迫。3月までは同様の状況が続くと予測。

サービス業／ホテル・旅館は、県外受験生の宿泊は減少したが、外国人客の増加、個人旅行客の増加により、前年並みを確保した。自動車整備は、1月は極端に売上が落ちる時期であり、各社の経営は厳しい。

建設業／建設業は、公共事業削減の影響、民間物件の動きが少ない等経営環境が悪化。鉄構工事は、工場などの設備関連工事が増加するなど、前年並みを確保。管工事は、公共事業・民間とも減少した。寒波による緊急工事が増加したが、収益状況は改善されない。型枠工事は、昨年はマンシオンなどの民間工事で多忙であったが、今年は公共工事・民間工事も期待薄のため、安値競争による経営の悪化が懸念される。

運輸業／タクシー業界は、昼間客は短距離中心、夜間客は減少しているため、売上減少。バス業界は、燃料価格の高騰の影響により、倒産企業が出る可能性がある。中小のトラック業者は、燃料コスト増により、営業利益が少ないため、経営維持が困難な状況。

